

Daily Report (= 44)

~2月の米雇用統計について~

結果概要

米国労働省が3月4日に発表した2月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+67.8万人と市場予想(同+42.3万人)を大きく上回る結果となりました。前月分は、+48.1万人(速報値+46.7万人)に上方修正されました。

業種別では、教育・ヘルスケア業が前月比+11.2万人(前月比*+3.3万人)、娯楽・接客業が同*+17.9万人(同*+16.7万人)、金融業が同+3.5万人(同*+0.3万人)と上昇し、全体的に安定した雇用回復が見られました。

失業率は3.8%と前月(4.0%)から小幅改善したものの、平均時給は前月比+0.0%と前月の同+0.7%を下回り、前年同月比も+5.1%と前月の同+5.5%から減速する結果となりました。

*1月の前月比実績値 (出所)Bloomberg

市場反応

4日の米国株式市場はNYダウ平均株価、S&P500指数、ナスダック総合指数が揃って下落しました。 雇用統計は米国労働市場の堅調な回復を示す内容であったものの、ロシアのウクライナ侵攻を背景に、地政学リスクの長期化やロシアへの制裁強化による世界経済停滞への懸念が高まり、NYダウ平均株価は前日比▲0.53%、S&P500指数は同▲0.79%、ナスダック総合指数は同▲1.66%となりました。

米国債券市場ではロシアのウクライナ侵攻を受けた投資家のリスク回避姿勢を背景に債券が買われ、10年国債利回りは前日比▲0.11%の1.73%程度で引けました。

米ドル/円も同様にリスク回避姿勢の強まりから円買いドル売りが先行し、前日比64銭程度円高ドル安の114.82円/ドルで取引を終えました。

原油先物市場は、ウクライナ情勢をめぐり欧米諸国がロシア産原油の輸入停止を検討しているとの 思惑などから需給逼迫への警戒感が高まり、WTI原油先物4月限は前日比+7.44%の 1バレル=115.68ドルとなりました。



評価・今後の見通し

2月の雇用統計は非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に上回る結果となり、労働市場の堅調ぶ りを裏付ける内容となりました。

パウエルFRB議長は3月2日の議会下院での証言で、3月15~16日のFOMCで「0.25%の利上げを 支持する提案をしたい」と明言しています。一方で、ロシアのウクライナ侵攻に伴う資源価格の高騰な どを受けて、パウエルFRB議長は「当面は物価に上昇圧力がかかる」と発言しており、10日発表予定 の米消費者物価指数(CPI)で想定以上のインフレ率が公表された場合には、1回の利上げ幅を 0.5%に広げる可能性もある点などには留意が必要です。

今後、FRBの政策運営はインフレ抑制や米国経済の減速回避、対ロシア制裁の副作用への対処な ど、極めて慎重な舵取りが求められると考えており、株式市場は当面値動きの激しい展開を予想しま す。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所:米国労働省

		21/9	21/10	21/11	21/12	22/1	22/2
非農業部門		42.4	67.7	64.7	58.8	48.1	67.8
鉱二	工業部門	5.4	8.3	9.9	9.3	2.4	10.5
	建設業	3.0	2.8	4.7	4.4	0.7	6.0
	製造業	2.2	5.3	4.8	4.1	1.6	3.6
	資源•鉱業	0.2	0.2	0.4	8.0	0.1	0.9
サ-	ービス部門	35.5	61.1	52.8	46.8	42.4	54.9
	卸売業	0.5	1.2	1.5	1.9	1.2	1.8
	小売業	5.9	4.3	2.0	3.8	6.9	3.7
	輸送•倉庫業	3.6	5.1	3.7	2.2	5.1	4.8
	情報	0.8	1.2	1.8	0.9	1.0	0.0
	金融	1.3	2.3	3.2	1.4	0.3	3.5
	専門・ビジネスサービス業	7.4	23.6	11.1	9.1	7.3	9.5
	人材派遣業	0.8	15.3	1.1	4.1	3.3	3.6
	教育・ヘルスケア業	0.9	6.8	6.9	6.5	3.3	11.2
	娯楽·接客業	13.4	14.1	19.1	18.6	16.7	17.9
	その他	0.9	-12.8	2.4	-1.7	-2.8	-1.0
政府部門		1.5	-1.7	2.0	2.7	3.3	2.4
失業率(%)		4.7	4.6	4.2	3.9	4.0	3.8
平均時給(前年比、%)		4.8	5.4	5.3	4.9	5.5	5.1

非農業部門雇用者数増減と失業率の推移 (ご参考)



(期間)2019年12月~2022年2月(出所)Bloomberg